

*arum* の四亞屬に大別して居る。 *Psilachne* は著書に従へば有實小花 (fertile floret) は毛茸がなく又芒もない最も原始的な群で此れは本邦にその代表種がない。 *Chalynochlammys* は本邦のトダシバを含む小群で尙その他に支那湖南省から記載された *A. fluvialis* HAND.-MAZZ. があり、此れは著者はトダシバの變異中に含まれるべきものかと考へて居るが、挿圖で見ると實際良く似たものである。次に著書の見て居らない種類として本邦の *A. paniciformis*, *A. oleagina*, *A. riparia*, *A. murayamae*, の四種を列擧してあるが、此れも著者の暗示する様にトダシバと種を別にすべき程の差はない様に思はれる。尙耿氏はトダシバに *A. anomala* STEUD. を用ひて居るが此れは *A. hirta* と改めらるべきである。此種で區別されて居る澤山の變種は耿氏の云ふ様に重要なものではない。有實類 (fertile lemma) の先端に膝曲する芒があつてその左右に短かい芒のない *Arundinella* proper 群では最も種類が多くて 21種もあるが本邦にも分布するのは臺灣産の *A. pubescens* MERR. et HACK. (= *A. hispidula* f. *humilior* HACK. = *A. caespitosa* JANOW.) シバガヤ一種である。膝曲する芒の兩側にも小芒のある *Miliosaccharum* 群は臺灣に *A. setosa* TRIN. ヒガヤなる代表種がある。

各種類に亘つて一々詳細な英文解説と挿圖とがあり、本屬に對する良い参考書である。 *A. cochinchinensis*, *A. flavida*, *A. chenii* は新種である (大井次三郎)

### フアセツト氏 オホバタケシマラン屬の研究 — N. C. FASSETT, A Study of *Streptopus*, in *Rhodora* 37 (1935) 88—113.

此の研究は北米各地に散在する大學や博物館の標本を基礎にしたものであるが、東亞の材料については豊富ではなかつた様であるにもかかわらず、全体としてよくまとまつた小論文で吾々に取つても参考にすべき點が多い。本屬で目立つ形態方面の特徴は花梗の出方であるが、オホバタケシマランで GOEBEL (1931) は各花は頂生してその葉腋の側芽が主軸の様な状態に成ると考へたが此れは ARBER (1910) の解釋する様に腋生で花梗が莖と癒合したものであり、此の事は北米産の同屬の他種を調べるとよく解ると云ふ。

タケシマラン屬 (*Kruhsea*) を本屬から分つか否は各個人の判断による外はないが屬としては餘り明瞭ではなく節としては著しい。著者は花序の特徴である花梗の合着と全体の變異が同じ理由で同一と考へて居る。

扱此屬は著者によれば七種とそれの變種とから成り、その名稱分布は次の様に成る

- 1) *S. simplex* DON (英領印度及び支那)
- 2) *S. parviflorus* FRANCH. (支那)
- 3) *S. amplexifolius* DC. var. *genuinus* (南歐の山地) var. *chlamys* FASSETT, v. n. (北米西部)

var. *americanus* SCHULTES (北米・勸察加) var. *denticulatus* FASSETT n. v. (北米・勸察加・アムール・アリウシヤン) var. *papillatus* OHWI (日本) var. *grandiflorus* FASSETT n. v. (北米西部) var. *oreopolus* FASSETT (北米東部) 4) *S. obtusata* FASSETT n. sp. (支那四川省) 5) *S. roseus* MICHX var. *typicus* (北米東部) var. *perspectus* FASSETT n. v. (北米東部) var. *longipes* FASSETT (北米中部) var. *curvipes* FASSETT (北米西部) 6) *S. streptopoides* FRYE et RIGG var. *verus* (西比利亚東部) var. *brevipes* FASSETT (北米) var. *japonicus* FASSETT (日本) var. *atrocarpus* MATSUM. (日本) 7) *S. koreanus* OHWI (朝鮮) (大井次三郎)

**孔憲武氏：支那産スズメノエンドウ屬** — H. W. KUNG : Notes on Chinese *Vicia* in Contr. Inst. Bot., National Academy of Peiping 3 (1935) 383—395.

著者の調べた支那産の *Vicia* の報告で十七種を記して居り、その内 *Vicia tetrantha*, *Vicia sinkiangensis* は新種である。十七種に對する檢索表と新種二つの圖版がある

**金平亮三氏：増補改版臺灣樹木誌 (1936).**

本書初版即ち大正七年に發行されたものに比して内容、挿圖共に著しく改良されて全く雲泥の相違がある。氏によれば臺灣に於ける最初の植物採集は R. FORTUNE (1854) であると云ふ。その後 C. WILFORD, R. SWINHOF, R. OLDHAM, W. GREGORY, J. B. STERRE, W. HANCOCK, C. FORD, G. PLAYFAIR, A. HENRY 等の採集があつた。日本領有に成つてから牧野、大渡、森、川上、小西、U. FAURIE の諸氏の調査があり、その後臺北に帝國大學が設立された。氏は臺灣を次の五帯に分けて居る。1 紅樹林帯 2 海岸林 3 農耕地帯 4 潤葉樹帯 5 針葉樹帯、各論はフモトヘゴに初まり、ヒメクサトベラに終る 879 種の文獻、解説、島内及び島外の分布を説明し、殆んど各頁毎に挿入された挿圖と共に臺灣樹木の調査には絶好の参考書である。此の書で改められた學名も相當ある。又改められるべき學名も少しあるが此れは意見の相異で當然かも知れない。此の中で發表された新種の記載が中途半端であるのと、知られて居た學名が相當脱落して居るのは残念である。(大井次三郎)

**佐竹義輔氏：日本産マヲ屬植物** — Y. SATAKE, *Boehmeria Japonica*, in Joun. Fac. Sci., Imper. Univers. Tokyo, Sect. 3, Vol. 4, pp. 467—542, with 54 textfig., July 25, 1936.

著者の研究は東京帝國大學理學部植物學教室所藏の標本を基として行はれたもの